建築人

2026
11

Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter "Kenchiku-Jin" No.749



Gallery | 神戸女学院 小林季子記念館
なないろスマイル新高保育園
クオーツ心斎橋
Topics | 江戸時代 朝鮮通信使がもたらした日本と朝鮮国の平和
Talk Relay わたしの推し
連　載 | 松隈　洋『記憶の建築』
中嶋節子『大阪の表象 第2回』

第18回 建築人賞 受賞作品

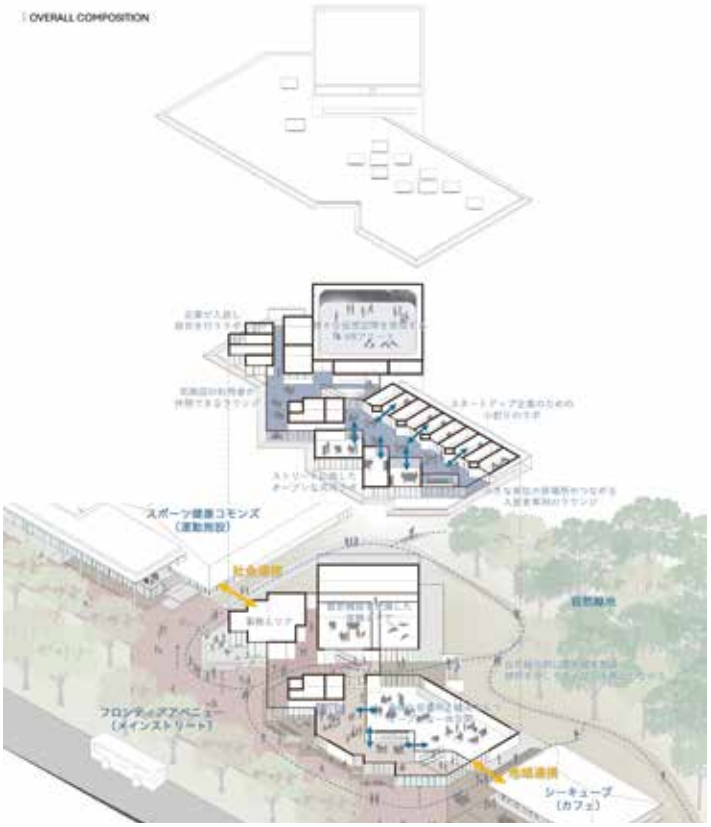
立命館先端クロスバースイノベーションコモンズ／グラスルーツイノベーションセンター

設計：竹中工務店　岩崎　宏・成田康輔・津田加奈子　　設計監修：立命館キャンパス計画室　　施工：竹中工務店









「立命館先端クロスバースイノベーションコモンズ／グラスルーツイノベーションセンター（CVIC/GIC）」は、キャンパスのメインストリート沿いに建つオープンイノベーション・インキュベーション施設です。研究施設を学生だけでなく地域にも開いて連携を構築し、郊外型キャンパスと周辺地域の双方を活性化させる拠点を目指しました。キャンパスを構成する2つの軸線を引き込み、メインストリートに対して雁行するひだ状の空間により、新たな人の流れと滞留の場を創出しました。また、周辺建物の庇や列柱、段状のデッキなどを継承し、周辺環境と調和させながら、大きな軒下空間であらゆる人を迎えるキャンパスの新たな顔となります。内外装材には素地系素材や周囲の環境を柔らかく映し込む反射系素材を用い、時の移ろいによって刻々と変化する空間の表情をつくり、利用者の感性や創造性を刺激する環境を実現しました。内部空間では45°傾いたスクエア状を空間が数珠つなぎに展開し、諸室との多面的なつながりと外部環境への重層的な広がりを生み、偶発的な出会いや気づきを誘発します。



岩崎　宏
（いわさき・ひろし）
1980年東京生まれ／2006年竹中工務店入社／現在大阪本店設計部設計1部門3グループ長



成田康輔
（なりた・こうすけ）
1990年名古屋生まれ／2014年竹中工務店入社／現在大阪本店設計部設計5部門2グループ



津田加奈子
（つだ・かなこ）
1996年東京生まれ／2020年竹中工務店入社／現在大阪本店設計部設計5部門3グループ

所在地：滋賀県草津市
用　途：大学（研究施設）
竣　工：2025.05
構造規模：鉄骨造　地上2階
敷地面積：590,050㎡
建築面積：2,772㎡
延床面積：4,245㎡
写　真：母倉知樹（表紙）COMARS

建築人

2026.11 No.749
Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter “Kenchiku-Jin”

2 表紙 建築作品概要
第18回 建築人賞 受賞作品
「立命館先端クロスバースイノベーションコモンズ／
グラスルーツイノベーションセンター」
設　　計：竹中工務店 岩崎 宏・成田康輔・津田加奈子
設計監修：立命館キャンパス計画室
施　　工：竹中工務店

4 Gallery 建築作品紹介
「神戸女学院 小林季子記念館」
建築主：学校法人 神戸女学院
設　計：日建設計
施　工：竹中工務店

「なないろスマイル新高保育園」
設計：アバクス・アーキテクツ
施工：日生建設

「クオーツ心斎橋」
基 本 計 画：竹中工務店
基 本 設 計：日建設計・竹中工務店JV
実 施 設 計：竹中工務店
商環境設計：竹中工務店／ブラーリー
技術コンサルティング：日建設計
施　　工：竹中工務店

8 動静レポート

9 Topics

10 大阪の表象　第2回
木の都 坂上の町 / 中嶋節子

11 News of Note
【建築士の日記念事業「建築士と学ぶ DIY入門」】報告

12 Information

14 記憶の建築
「弘前市緑の相談所」1980年
傾斜屋根と打込みタイル壁の併存へ / 松隈 洋

15 MOAIの独言

建築人 No.749　2026年11月号

監修　公益社団法人大阪府建築士会　建築情報委員会

編集　建築情報委員会『建築人』編集部
部門長：松下典央
委員長：武藤優哉
編集人：昇　勇　石貫方子　岩岸克浩
荻窪伸彦　笠松哲司　河野　学
大松俊祐　中北　力　春岡須磨子
三谷勝章　村上栄司　山本恭史
事務局：辻本和人　母倉政美

ロゴ・フォーマットデザイン　芝野健太

印刷　中和印刷紙器株式会社

令和8年11月1日発行
発行人：会長／上田茂久
発行所：公益社団法人大阪府建築士会
〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17 高田屋大手前ビル5F
tel. 06-6947-1961

Gallery





神戸女学院 小林季子記念館

建築主：学校法人 神戸女学院
設　計：日建設計
施　工：竹中工務店









150年の歴史を未来へつなぐ学び舎
創立150周年事業の一環として計画された、心理学部の新学舎（小林季子記念館）の新築ならびにキャンパス西側の外構整備計画である。既存キャンパスのウィリアム・メレル・ヴォーリズの精神を継承し、軸線を意識したシンメトリーな配置計画と、中庭・藤棚を中心とする空間構成によって新旧の調和を図った。新棟の高さをあえて低く抑え、隣接する理学館や社交館（重要文化財）のファサードを引き立てるとともに、既存ファサードが新棟中庭からの借景となるよう計画した。さらに大切にストックされてきたスクラッチタイル、古瓦、家具などキャンパス内の材料循環を促し、歴史的継承とサステナビリティを両立させた。

所 在 地：兵庫県西宮市
用　　途：大学・高等学校・中学校
竣　　工：2026.01
構造規模：RC造（一部鉄骨造）地下1階 地上2階
敷地面積：124,164.22㎡
建築面積：405.35㎡
延床面積：996.32㎡
写　　真：伊藤 彰［アイフォト］

なないろスマイル新高保育園

設計：アバクス・アーキテクツ
施工：日生建設









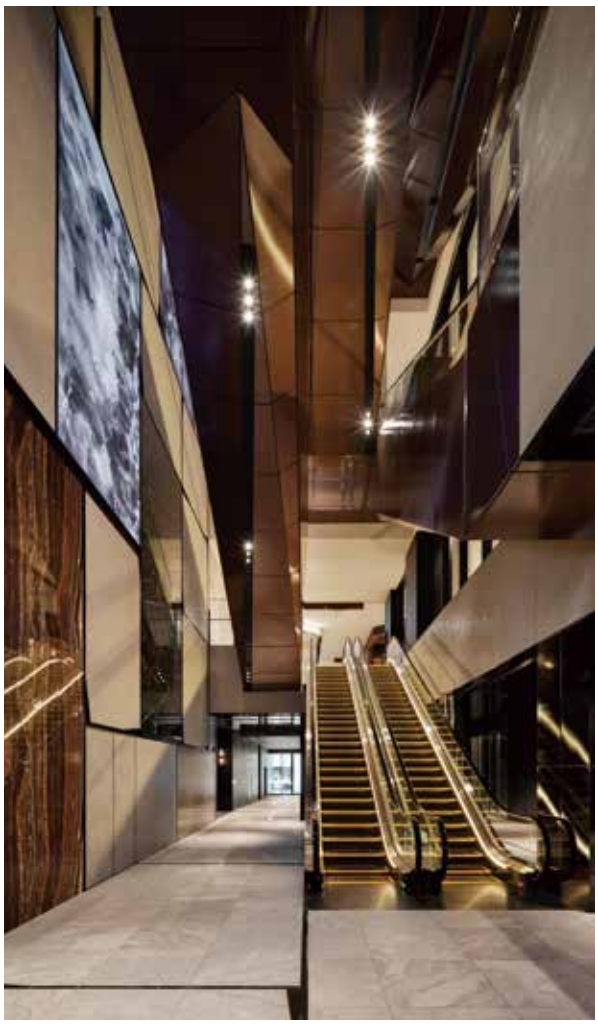


木造2階建て、準耐火建築物の保育所です。敷地は大阪市の淀川区、115坪の狭い複雑な形をした変形地に80名収容の保育所を建てました。南面の道路を挟んで公園があることが唯一の救いとなる環境です。外部空間を造る余裕のない敷地でどの様にして子供たちが楽しく過ごすことができる空間を造るのかがテーマとなりました。建物の中央部分に階段室を設け、そこから各保育室に光が届くよう計画しています。その階段室を少し大きく作ることでそこが遊び場になり図書コーナーに変わります。園から要望のあったプレイルームには小屋組み部分にネットを張り、子どもたちが遊べる空間を増やしています。角のない丁寧な施工は摂津にある株式会社日生建設さんによる匠の仕事です。（栄　隆志）

所 在 地：大阪市淀川区
用　　途：保育所
竣　　工：2026.02
構造規模：木造
　　地上2階
敷地面積：381.86㎡
建築面積：267.24㎡
延床面積：553.63㎡
写　　真：笹倉洋平

クオーツ心斎橋

基本計画：竹中工務店
基本設計：日建設計・竹中工務店JV
実施設計：竹中工務店
商環境設計：竹中工務店／ブラーリー
技術コンサルティング：日建設計
施　　工：竹中工務店









※

御堂筋と長堀通が交差する心斎橋。その都市のエネルギーを受け止め、地上から天空へと立ち上がる結晶のような建築を創出した。クオーツ（石英）を想起させる多面体のボリュームを交差点に向けて表出させ、見る位置や光によって表情を変える都市景観の新たな焦点を形成する。低層の商業吹抜は街の賑わいを内部へ引き込み、中層のオフィスロビーは緑豊かなテラスと連続する中空のパブリックスペースとし、高層のホテルトップフロアは大阪の都市景観へ大きく開く。商業・オフィス・ホテルを単に積層するのではなく、それぞれの高さに街と出会う場を設け、都市体験を立体的に連続させた。心斎橋という場所の力を結晶化し、人・街・空をつなぐ新たなランドマークを目指した。

所 在 地：大阪市中央区
用　　途：商業、オフィス、ホテル
竣　　工：2026.03
構造規模：S、RC、SRC造
　　地下2階
　　地上28階
敷地面積：3,289.93㎡
建築面積：3,003.99㎡
延床面積：46,226.77㎡
写　　真：ナカサアンドパートナーズ
　　※竹中工務店

動静レポート

会長動静

9/30　近畿会長会議、近畿建築士会協議会
10/6　日本建築士会連合会国際委員会
10/9　大阪商工会議所訪問、正副会長会議、運営会議
10/14　天王寺区包括連携協定締結式
10/15　日本建築士会連合会企画運営会議、同理事会
10/16　第 68 回建築士会全国大会ぐんま大会
10/21　理事会

10 月度　理事会報告

日時　10 月 21 日（水）16：00 ～ 18：00
場所　本会東会議室及び WEB
出席　理事 40/46 名　監事 3/3 名

【審議・承認事項】
(1) 会計報告、入退会報告

（円）	9 月計	累計
収入	4,125,972	65,941,001
支出	8,390,653	52,469,582
差引	-4,264,681	13,471,419

（人）	入会	退会等	9 月
正 会 員	1	5	1,996
準 会 員	0	0	30
特別準会員	0	0	21
賛助会員㈱	0	0	167
計	1	5	2,214

上記の会計報告及び入退会報告を承認しました。

(2) マンション維持管理支援委員会運営規程の改訂
マンション管理支援制度の運用方法や業務受託時の責任範囲等を明確化することを目的とした改訂案について説明があり、審議の結果、承認されました。

(3) 大阪府ヘリテージマネージャー協議会規程の改訂
協議会への入会手続の明確化及び退会規定の整備を目的とした改訂案について説明があり、審議の結果、承認されました。

(4) 大阪地域貢献活動センター構成メンバー組織再編に伴うセンター構成メンバーの所属委員会名の変更について説明があり、審議の結果、承認されました。

(5) 建築・都市計画・ランドスケープ分野の連携協力に関する覚書案
一般社団法人都市計画コンサルタント協会及び一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会関西支部との連携強化を目的とする覚書案について説明があり、審議の結果、承認されました。

【報告事項等】
(6) 事業執行報告
定款第 21 条第 4 項に基づき、会長、副会長、常任理事（部門長）より各事業の執行状況について報告がありました。

(7) 天王寺区との包括連携協定締結式
9 月度理事会で承認された天王寺区との包括連携協定の締結式について報告がありました。

(8) 第 70 回大阪建築コンクール応募要項案
応募要項案及び今後のスケジュールについて報告がありました。

(9) その他
・近畿建築祭奈良大会及び忘年交流会について報告があり、参加促進への協力が要請されました。
・令和 9 年度定時総会における記念講演の講師候補について報告がありました。

理事会での賛助会員 PR

本会では理事会において賛助会員企業による企業・製品紹介の時間を設けております。10 月はベクターワークスジャパン株式会社社より「Vectorworks Architect と BIM 図面確認申請」というテーマでお話いただきました。



天王寺区と包括連携協定を締結

10 月 14 日付けで、大阪市天王寺区と本会は、天王寺区内における歴史的建造物等の保存・活用や地域の歴史文化を生かした魅力発信を推進し、地域活性化に寄与することを目的とする包括連携協定を締結しました。
本協定により双方が連携し、区内の歴史的建造物や近代建築の調査、地域の歴史や建築文化に関する情報発信、歴史的資源を生かしたまちづくり等を通じて、地域の魅力向上と活性化に取り組んでまいります。



令和 8 年度優秀卒業生表彰制度

本会では毎年、建築業界の将来を担う優秀な学生を表彰し、卒業後のさらなる活躍と研鑽への励みとして、建築関連学校の優秀卒業生を対象とした表彰事業を実施しています。表彰にあたっては、本会役員が卒業式等に出席し、表彰状を直接授与しています。
本年度も本事業の実施に向けて登録校を募集した結果、12 校にご登録いただきました。今後、2 月頃に各建築関連校から優秀な学生をご推薦いただき、卒業式等の機会に表彰を行う予定です。

Topics

江戸時代 朝鮮通信使がもたらした日本と朝鮮国の平和

日程：令和8年9月25日（金）
会場：建築士会 東会議室
参加者：13名

藤池寛治（国際委員会 委員長）

国際委員会としても、40数年という釜山の建築士会との人的交流他があることもあり、韓国には興味持ち、朝鮮通信使がどのようなものであったか、国際委員会としても、早く実現したいセミナーでした。
過去には朝鮮通信使は釜山総会参加時に釜山の通信使資料館にて資料を入手しましたが、期待できるものではなかったようです。
なので、朝鮮通信使に造詣のある大阪歴史博物館元館長であり、現在は北御堂ミュージアム名誉館長である大澤研一先生のお話しを本当に楽しみにしておりました。セミナーは朝鮮通信使を初めて学ぶための基礎的なところから説明されました。はじめには、再現航海した朝鮮通信使船のお話から始まり、皆様の記憶に新しい、大阪での万博においても、その船が大阪に来航したようです。朝鮮通信使の当時はソウルからで船は6隻に分乗し、その中には正使、副使、従事官が中心メンバーで、他には通訳、護衛の兵士、楽人、絵師、医師、料理人、身の回りのもの、あと船乗りがいたようです。その約500名の人が遠く韓国から日本の大阪に来航し、さらにそこから江戸・日光で片道約2,000㎞、そして往復6〜9ヵ月をかけてのみちのりでありました。ここで、『通信』の持つ意味を教えられ、それは、信（よしみ）を通わしあるものであり、また、雨森芳洲のお話しをされ、その方が61歳の時に、対馬藩主宗義誠に献じた朝鮮外交に関する意見書の中で「互いに欺かず、争わず、真実をもって交わることを誠信という」の文言を紹介されました。当時の江戸に向かうまでの道中が如何なものだと想像すると、非常に興味が尽きないものになります。しかし、一般人の通信使の接触は原則禁止で、許可される場合も役人が立ち会いであり、内容等もチェックされるようです。『海游禄』のなかで当時の大坂では文をもとめる者が諸地方に倍するほどで朝鮮通信使の方が鶏が鳴くという朝になっても寝られないほどであったということが紹介されてました。今回は朝鮮通信使がもたらした日本と朝鮮国の平和ということで初歩的なところの紹介でしたが、このセミナーをシリーズ化としていきたい。
豊臣秀吉の朝鮮出兵（1592〜、1597〜）により悪化した両国の国交復活を目指し始まった1607年〜1811年までの12回来日という歴史ですが、今後のセミナーで、更に学んでいきたいと思います。



Talk Relay わたしの推し
「走る楽しさ、いつまでも」



嶽下康弘（地域サークル 委員長）

走ることとの付き合いは長く、小学校から高校まで陸上競技の中長距離に打ち込んできました。高校時代には全国高校駅伝への出場という貴重な経験にも恵まれ、仲間とともに全国の舞台を目指して練習に励んでいました。当時は「速く走ること」が最大の目標であり、毎日の練習が生活の中心でした。しかし高校卒業後は競技から離れ、約10年間ほとんど走らない生活を送っていました。再びランニングを始めたのは、健康維持や体力づくりがきっかけです。久しぶりに走ってみると、学生時代のようには体が動かず、自分でも驚きました。それでも少しずつ距離を伸ばし、継続するうちに、かつて感じていた「走る楽しさ」を思い出していきました。
現在は48歳。週4〜5回のランニングを続け、月間200km以上を目標に走っています。仕事の都合で走れない日もありますが、早朝や夜の時間を活用しながら習慣として継続しています。ランニングは特別な設備も必要なく、自分のペースで続けられることが魅力です。そして何より、努力した分だけ結果が返ってくるところに面白さがあります。
私は建築士として建築の設計監理に携わっていますが、ランニングと建築の仕事には共通点があると感じています。どちらも一朝一夕では成果が出ません。日々の積み重ねを大切にしながら、一歩ずつ目標へ近づいていく。その過程こそが重要です。設計も、最初のアイデアから完成まで数多くの検討と修正を重ねます。ランニングもまた、日々の練習の積み重ねによって記録や結果につながります。また、走ることで街の新たな魅力に気付くこともあります。車では見過ごしてしまう風景や建物、季節の移ろいを肌で感じながら走る時間は、私にとって大切なリフレッシュの時間です。旅先でもランニングシューズを持参し、その土地の街並みを見て走ることを楽しみにしています。
現在は若い頃のように簡単に走れるわけではありません。だからこそ、年齢を重ねた今でも目標を持ち続けることを大切にしています。
現在の目標はフルマラソンで3時間30分を切る「サブ3.5」の達成です。決して簡単な目標ではありませんが、その分挑戦しがいがあります。
走ることは、健康づくりのためだけではなく、自分自身の可能性を確かめるための大切な時間です。これからも建築と同じように、一歩一歩着実に積み重ねながら、走り続けていきたいと思います。また走ることは、特別な才能や道具がなくても始められる身近なスポーツです。速く走る必要も、長い距離を走る必要もありません。自分のペースで一歩を踏み出せば、それだけでランニングの仲間入りです。もし、この記事を読んで少しでも走ることに興味を持たれた方がいらっしゃれば、ぜひご一緒しましょう!




（このコーナーでは会員の趣味や仕事をリレー形式でご紹介していきます）

大阪の表象　第2回

木の都 坂上の町

中嶋節子・京都大学大学院人間・環境学研究科

大阪は「水の都」と称呼される。大阪は近世以来、舟運によって発展した都市であったが、「水の都」の呼び名が広まったのは明治30年代後半以降と、橋爪紳也は指摘する（『水の文化』35号 2010年6月）。河川と堀、橋梁、港湾、中之島の近代建築など、水辺に展開した近代都市大阪の都市表象として、「水の都」は共有された。

それに対し、織田作之助（1913-1947）が見つめたのは、水ではなく木と坂によって表象される大阪であった。織田の作品に、「木の都」（『新潮』1944年3月号）という短編がある。大阪の上町で育った「私」が、十年ぶりに口縄坂を上って懐かしい町を訪れ、そこで偶然親しくなったレコード店の主人一家との出会いと別れを経験する、淡く儚い物語である。自伝的要素に虚構を織り交ぜた、詩情あふれる作品である。

織田は、大阪市南区生玉前町（現・天王寺区生玉前町）、生國魂神社近くの仕出屋の息子として生まれた。高津中学校を卒業するまでこの界隈で育ち、第三高等学校（現・京都大学）に進学すると京都に移り住み、以降は京都のほか、堺や東京を拠点に執筆活動を行った。「木の都」の「私」には、織田自身が投影されている。「木の都」は、故郷を離れた「私」が、上町を捉え直すところからはじまる。

「木」と「坂」の記憶

そこで感慨深く語られるのが、木と坂の情景である。作品の冒頭、「大阪は木のない都だといわれているが、しかし私の幼時の記憶は不思議に木と結びついている」と、生國魂神社の樟、北向八幡の銀杏をはじめ、寺院の樹々が豊かな上町の記憶が綴られる。大阪は緑の少ない都市であるとの指摘は、戦前からあった。大阪の先輩作家にあたる宇野浩二（1891-1961）は、『大阪』（小山書店、1936年）のなかで、大阪を「木のない都」と記す。「木の都」は、こうした見方に対し、織田がさりげなく反論したものとされる。「大阪はすくなくとも私にとっては木のない都ではなかった」と「私」は繰り返す。

この作品のもうひとつの重要なメタファーが坂である。上町台地の西縁には、台地とその西に広がる低地をつなぐ坂がある。なかでも、真言坂、源聖寺坂、口縄坂、愛染坂、天神坂、清水坂、逢坂の天王寺七坂がよく知られる。「私」は、坂の上の町、上町から「船場、島ノ内、千日前界隈へ行くことを『下へ行く』」と言ったとする。日々の暮らしのある坂の上の世界から、近代都市化した賑やかで猥雑な坂の下の世界へ向かうことは、少年時代の「私」にとって特別な体験であり、両者をつなぐのが坂だった。大人になった「私」は、少年時代とは反対に、口縄坂を下から上へとたどることで、記憶のなかの上町と、そこに生きた少年時代の自分を探す。ここで口縄坂は、現在と過去をつなぐ回路としての役割を果たす。やがて、レコード店の主人一家が名古屋に転居すると、「私」の甘い郷愁は行き場を失い、口縄坂を上ることもなくなる。そこで物語は終わる。

私的原風景としての上町

近代文学には、坂や崖など、土地の高低差に意味を託した作品が数多くある。夏目漱石の『門』、田宮虎彦の『菊坂』では、土地の高低差が、社会階層や人生の上昇、下降と重ね合わされる。

しかし、大阪の上町はいわゆる山の手ではないと「私」は言う。「高台にある町ゆえに上町と呼ばれたまで」で、路地の多い、貧乏人の多い町だったとする。そして、「上町の私たちは下町の子として育って来た」と。織田の『わが町』（『文藝』第10巻第11号、1942年）には、「路地は情けないくらい多く、その町にざっと七八十もあろうか。いったいに貧乏人の町である。路地裏に住む家族の方が、表通りに住む家族の数よりも多いのだ」と記される。

「木の都」で、豊かな緑と多くの社寺のある下町的な場所として回想される上町は、河川や堀、港湾によって語られる「水の都」大阪とは対照的である。それは、織田の私的な原風景であるとともに、近代大阪の都市表象からこぼれ落ちた、大阪のもうひとつの都市像といってよい。

失われゆく大阪の記録

日本近代文学研究者の佐藤秀明は、永井荷風（1879-1959）を好んだ織田が、『日和下駄』（籾山書店、1916年）を意識して「木の都」を執筆したとする（織田作之助『夫婦善哉 正続』岩波文庫、2013年、解説）。永井は、近代化によって急速に消えていく江戸東京の風景を、歩行者の身体を通して記録した。

「木の都」には、自らの原風景もやがて消え去るのではないかという織田の予感を読み取ることができるが、その眼差しは東京の風景へと向けられた永井のそれと重なる。

戦局が悪化していた昭和19年（1944）3月に発表されていることも注目される。大阪市内は、昭和19年の年末から翌年8月14日まで、50回以上の空襲を受けたが、とりわけ昭和20年3月13日の第一次大阪大空襲では、焼失範囲が市の中心部だけでなく周辺の住宅地にも及んだ。坂下の下寺町、日本橋、千日前、難波が大規模に焼失し、上町台地上の市街地には焼失を免れた区域もあったものの、生國魂神社、高津宮、四天王寺をはじめ多くの社寺で主要建物が失われた。「木の都」は、期せずして空襲直前の上町の風景を書き留めた作品となった。

上町の戦後

織田の描いた上町は、戦後、どのように変わったのか。社寺が再建される一方、焼失地域を中心に、谷町筋など幹線道路の拡幅、細街路や袋小路の整理、土地区画整理などの戦災復興事業が実施された。

上町は、「木の都」の執筆時とは異なる都市空間へと再編されたように思われる。しかし、その変化は、織田の原風景を完全に消し去ったのだろうか。坂と社寺の緑はいまもそこにあり、戦前からの町家や長屋、路地も見つけることができる。

坂を上って、織田が見た風景を探したい。

中嶋 節子（なかじま せつこ）
京都大学大学院人間・環境学研究科教授
京都大学工学部卒業。京都大学大学院工学研究科博士課程修了。大阪市立大学助教授等を経て現職。博士（工学）。一級建築士。専門は都市史・建築史。

【建築士の日記念事業「建築士と学ぶ DIY入門」】報告

青年女性委員会　浅井駿平

公益社団法人大阪府建築士会 青年女性委員会では、建築士の日の記念事業として、一般の方を対象としたセミナー「建築士と学ぶDIY入門」を開催しました。SNSや動画でDIYの情報があふれる一方で、「自分でやるのは少し怖い」「どこまで自分でやっていいのかわからない」という声も少なくありません。本セミナーは、建築士の視点からDIYの始め方や注意点をお伝えし、住まい手が自らの手で建物に関わるきっかけをつくることを目的に企画しました。

2026年9月26日（土）14時 ～16時、β 本 町橋のレンタルスペースにて開催し、22名の方にご参加いただきました。プログラムは、前半が建築士によるセミナーと学生会員（候補生）による体験談、後半がタイルのDIY体験の2部構成です。



▲準備の様子

前半のセミナーでは「自らの手で、建物を育てる」をテーマに、青年女性委員会の委員が講師となりお話ししました。DIYは単に費用を抑えるための手段ではなく、自分の手で触れることで建物への愛着が深まり、不具合にも慌てず向き合える「住まいのセルフメンテナンス力」が育つことにこそ本質があること。あわせて、塗装や棚づくりなど自分で楽しむ領域と、構造・電気・配管・高所作業などプロに任せるべき領域の境界線、防護メガネや手袋といった安全のための装備、身近な道具や工具のレンタル、材料の購入先についても具体的に紹介しました。



▲セミナーの様子

続いて、実際にDIYに取り組んでいる学生会員（候補生）から、元診療所の建物1階をカフェへと改修したプロジェクトの体験談を話してもらいました。ウッドデッキの施工や漆喰塗り、タイルで装飾したカウンターづくりなどの作業を写真とともに紹介。地域の工房を借りて職人さんのサポートを受けながら木材を加工したことや、カウンターに使うタイルの並び順へのこだわりなど、現場ならではの苦労や工夫が語られました。また、難しい部分はプロに任せたという話もあり、セミナーでお伝えした「境界線」を実例として感じていただける時間となりました。



▲学生の体験談

休憩をはさんだ後半は、青年女性委員会のメンバーが指導員となり、コースターなどに使えるタイルプレートの制作を体験していただきました。材料には、本会賛助会員の株式会社平田タイル様よりご提供いただいた様々な色のタイルと3色の目地材を使用しました。参加者の皆さんは色の組み合わせや並びを楽しみながら選び、熱心に作業に取り組まれていました。完成したプレートは持ち帰って、コースターなど日々の暮らしの中で使っていただけます。



▲タイルDIY体験の様子

仕上げの目地埋めでは「思っていたより難しい」という声も聞かれ、実際に手を動かしたからこその気づきも多くありましたが、最後には皆さんきれいな仕上がりの作品が完成しました。けがやトラブルもなく、予定どおりの時間で終えることができました。



▲目地埋めの様子

参加後のアンケート（回答15名）では、回答者の年代は30代から60代以上まで幅広く、50代が最多でした。DIYの経験は「少しやったことがある」方が中心です。講習の満足度は5段階評価で平均4.53、回答者全員が「4」以上という高い評価をいただきました。「自分で作ると愛着がわく」「DIYについて建築士の方に相談しても良いんだ!ということ」「DIYとプロに頼る線引き」「実際にタイル貼りを体験できたことで、講義だけでなく実践を通してDIYを学べた点も良かった」といった感想が寄せられたほか、今後聞いてみたいこととして、浴室タイルの手入れや目地の補充方法、マンションリフォームの相談先などが挙がりました。



▲完成した作品

今回のセミナーを通じて、DIYの本質ややり方、材料の購入方法に加え、安全面についてもしっかりお伝えできたと感じています。さらに「建築士と一緒につくる」という選択肢を紹介することで、建築士の存在意義や魅力についても知っていただく機会になりました。いただいたご意見を生かし、今後も一般の方と一緒に手を動かしながら学べる企画を続けていきたいと考えています。

最後になりましたが、本企画の開催にあたり、タイルや目地材などの材料をご提供いただきました株式会社平田タイル様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

Information

建築士会からのお知らせ

令和8年度監理技術者講習

11/11、1/13、3/19　CPD6単位

本講習会は建設業法に基づく法定講習であり、建築に特化したテキストを使用し、実務に役立つ情報を提供いたします。

日時　11/11（水）、1/13（水）、3/19（金）
　　各8：55～17：00
会場　大阪府建築士会　東会議室
定員　各回30名（定員に達し次第締切）
受講料　WEB申込み9,500円
　　郵送申込み10,000円
申込　日本建築士会連合会HPより

既存住宅状況調査技術者講習

更新講習11/12、2/19
CPD新規5単位、更新2単位

既存住宅状況調査は、登録機関の講習を修了した建築士のみに認められる業務です。ぜひ本講習で新たな業務の資格を取得してください。令和5年度に本講習を修了された方は本年度が有効期限となりますので、更新講習をご受講ください。

▼更新講習（DVD）
日時　11/12（木）、2/19（金）
　　13：30～17：00
会場　大阪府建築士会　東会議室
定員　30名（定員に達し次第締切）
受講料　WEB申込17,000円
　　郵送申込17,600円
▼申込　日本建築士会連合会HPよりお申込みください。

既存木造住宅の耐震診断・改修講習会（一般診断法）

11/17、1/29、2/25
CPD各4単位

本講習会は、大阪府及び府内市町村の木造住宅耐震診断・改修の補助を受けることができる技術者の養成を目的としています。2026年1月にテキストの改訂があり、一般診断法の必要耐力および保有する耐力の計算方法が変更されました。過去に受講された方におかれましても本講習を再度受講され、最新の技術を業務に活用されますようご案内いたします。

日時　11/17（火）、1/29（金）、2/25（木）
　　10：00～15：50
会場　大阪府建築健保会館
定員　80名（定員に達し次第締切）
受講料　会員5,000円　一般9,000円
テキスト代　9,900円
　「2025年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」

令和8年度　建築士定期講習

2/10、3/24

建築士法の規定により、建築士事務所に所属するすべての建築士は3年以内ごとに定期講習を受講しなければなりません。本年度は令和5年度に本講習を受講された方や、建築士試験に合格された方が対象となります。未受講者は懲戒処分の対象となりますので必ず年度内に受講してください。

▼日程・会場・定員
※2/10（水）大阪府建築健保会館　70名
　3/24（水）大阪府建築健保会館　70名
上記すべてDVD講習です。
※の日程：大阪府建築士会が運営
※以外の日程：大阪府建築士事務所協会が運営
注）各回定員に達し次第、受付を終了します。
時間　9：15～17：00（各講習日共）
受講料　12,980円（消費税含。事前入金）
申込　建築技術教育普及センターHPより

神戸ウォーカー
在りし日の神戸の姿・残像を求めて「旧湊川跡と湊川隧道を歩く」

11/21　CPD2単位予定

神戸には港町として発展してきた歴史を支える近代土木遺産が数多く残っています。特に「水・港・交通」に関するインフラが特徴的ですが、今回は神戸を代表する三大土木遺産（明治期の基盤）の湊川隧道（みなとがわずいどう）を見学します。その他、神戸駅北側（孫文の滞在先・宿泊旅館周辺確認）、新開地本通り（旧湊川の埋め立て地・旧家具屋通り・福原遊郭界隈）、湊川公園～旧神戸タワー跡～旧川池小学校（現）～荒田町付近（大工町・材木商）～楠正成造～兵庫区～湊川市場（神戸の台所）も見学予定です。
※見学ルートは変更になる可能性があります。

日時　11/21（土）　13：00～17：00
　　※見学の都合で終了時間が変更になる可能性があります。
集合場所　JR神戸駅中央出口（12：45）
講師　森田茂夫（本会国際担当特任相談役）
参加費　会員1,000円　一般2,000円
定員　20名（申込先着順）
懇親会　三宮にて会費5,000円程度（予定）

令和8年度「八百屋お七聞き比べ」in 大阪府庁舎（正庁の間）

11/27、11/28

大阪が誇る伝統芸能である文楽と講談を、今年100周年を迎える大阪府庁舎の正庁の間で上演いたします。会場には、文楽の櫓や手摺、太夫・三味線弾き、そして講談師が使う高座も設置されます。このような唯一無二の空間を、ぜひ体験しませんか。

第1回　11/27（金）　18：30開演　20：30終演
第2回　11/28（土）　14：30開演　16：30終演
また、番外編といたしまして
源平合戦（素浄瑠璃×講談）も行いますので、こちらの方も是非ご参加くださいませ。
11/28（土）　11：00開演　12：30終演

講演会＆ワークショップ
正解のない課題をどう合意形成するか?

11/29　CPD3単位予定

知識科学のエキスパートである北陸先端科学技術大学院大学の永井由香里先生をお招きし、知識科学やKJ法、センスメイキング、パーパスデザイン、AI等について講演会を開催いたします。
後半のワークショップでは、学んだ知識を活用しながら、建築士会が抱える課題やその魅力について皆様と探求します。

これからの建築士にとって大切な「対話と創造」の力を磨く、絶好の機会です。ご参加ください!
日時　11/29（日）　13：00〜16：45
会場　大阪府建築士会　東会議室
定員　55名
参加費　2,000円
対象　会員・学生

毛馬排水機場と重要文化財旧毛馬閘門見学会
11/30　CPD2単位予定

日本の近代的河川改修は明治時代に淀川から始まりました。大阪市中心部を洪水から分離するため「新淀川」を開削し、大阪市内と新淀川の分岐点に毛馬洗堰と毛馬閘門を設けたのです。今回、新淀川から大川に分岐する淀川分流施設で現在稼働している「毛馬排水機場」と「淀川大堰」を見学し、その歴史と仕組みを学びます。その後、重要文化財に指定されている旧毛馬閘門などの分流施設を見学します。
日時　11/30（月）　14：30〜16：30
集合場所　淀川河川公園 眼鏡橋集合（14：15）
参加費　第一部　毛馬排水機場見学（無料）
　　第二部　重要文化財　旧毛馬閘門案内ツアー500円
定員　25名

R8年度 大阪府ヘリテージマネージャー・スキルアップ講習
12/6

スキルアップ講習とは、ヘリテージマネージャーを主に対象とし、さらなる研鑽によってそのスキルを向上させることを意図した講座です。今年度は2回の開催となります。
第2回「貝塚寺内町で学ぶ 悉皆調査の手法」
日時　12/6（日）　10：00〜15：35
会場　貝塚寺内町観光案内所
募集定員　20名（先着順）
資料代　本会会員及び大阪府ヘリテージマネージャー協議会会員・今年度育成講座の受講生・補講生：2,500円
　　会員外：3,500円

わくわく探検（駅前シリーズ）第23弾 平野郷のまちと歴史を歩く
―町家や寺社を訪ねながら、まちの成り立ちを知る―　JR西日本大和路線〜地下鉄谷町線編
12/12　CPD4単位予定

平野郷は、戦国時代に堺と並ぶ自治都市として栄えた歴史あるまちです。江戸時代の町割りや寺社、町家などが今も残り、「町そのものが博物館」と称されています。今回のわくわく探検では、杭全神社、全興寺、大念佛寺をはじめ、平野町ぐるみ博物館や歴史ある町並みを巡りながら、地域に息づく歴史と文化を体感します。河内木綿で栄えた商都の面影や、住民主体のまちづくり活動によって守られてきた景観に触れ、平野郷の魅力を再発見するまち歩きです。
日時　12/12（土）　9：00〜
集合　JR西日本大和路線　平野駅改札
解散　地下鉄谷町線　平野駅
募集　30名（申込先着順）
参加費　会員・一般1,500円　学生500円

2026年度 忘年・交流会
12/16

今年度も会員、賛助会員の親睦と情報交換の場として、忘年・交流会を開催いたします。世代や立場を越えた交流を通じて、来年への新たな活力を養う機会です。ぜひご参加ください。
日時　12/16（水）　19：00〜21：00
会場　O SEIRYU（オ・セイリュウ）
参加費　8,000円/人
定員　100名（申込先着順）

今さら聞けないシリーズ もう一度学ぶ塗料・塗装の基本
1/22　CPD2単位予定

関西ペイント販売㈱の協力のもと、今さら聞けない塗料（樹脂別性能や色の話など）や塗装仕様など基本的なところの説明と実際に塗料の調色作業を体験していただく講習内容です。
日時　1/22（金）　13：30〜16：30
集合場所　関西ペイント販売㈱尼崎事務所
参加費　会員1,000円　一般2,000円
　　入会後2年以内無料
定員　20名（申込先着順）

第21回国際企画海外研修旅行 「ネパール・マレーシアの両国を巡る」
2/18〜24　CPD申請予定

今回は大規模な洪水被害の発生したネパールのカトマンズ周辺とペトロナスツインタワー（シーザーペリー設計）で有名なマレーシアのクアラルンプールをメインに視察していきます。なお、被災現場には行きません。
日時　2/18（木）〜24（水）（機内2泊含む）
　　2/19〜21までカトマンズ、その後マレーシア滞在
定員　20名
参加費　会員345,000円、一般365,000円
　　※参加費に燃油サーチャージ、空港諸税等は含みません。
申込締切　12/10（木）

行政からのお知らせ

【補助制度のお知らせ】 大阪府宿泊施設バリアフリー改修等補助制度

大阪府では、誰もが安全で快適な宿泊施設を利用できる環境整備を促進するため、府内の既存宿泊施設のバリアフリー改修等を行う事業者を対象に、「大阪府宿泊施設バリアフリー改修等補助制度」を実施しています。募集期限は令和9年1月29日です。
■補助率：一律2/3
■上限額
　工事：エレベーター工事ありの場合／3,900万円
　　エレベーター工事なしの場合／1,300万円
　設計：400万円
　備品購入：40万円
■詳しくは以下のHPをご覧ください。
　HP：https://www.pref.osaka.lg.jp/o130170/kenshi_kikaku/hotel_hojo/hotelhojo_top.html
■お問い合わせ
　大阪府都市整備部住宅建築局建築環境課
　TEL：06-6210-9717

記憶の建築

傾斜屋根と打込みタイル壁の併存へ

弘前市緑の相談所　一九八〇年

文・写真＝松隈 洋［神奈川大学建築学部教授］

最晩年に向かう前川國男にとって、最大のテーマとなったのは、鉄とガラスとコンクリートからつくられる世界共通の近代建築を、日本の気候風土に適合させ、木造文化との連続性を確保しつつ、時間に耐えるものへと育て上げ、周囲の景観と調和させることだったのだと思う。その追求の節目として、前川が、建物の外壁を日本古来の焼き物のタイルで蔽う方法を試み始めたのは、一九六〇年に竣工する京都会館からである。



西側のテラスまわりの外観



北側の庭で催されたねぷた囃子の演奏

今から振り返れば、古都・京都は、弘前とともに、前川の建築思想の深化にとって特別な意味を持っていたといえる。というのも、四歳から東京で育ち、終生を都内で送った前川は、旧制高校時代の一九二三年九月一日の関東大震災に遭遇し、太平洋戦争末期の一九四五年五月二五日の山の手空襲により、自らの銀座の事務所を焼失させるなど、焦土と化した東京の姿を二度も目撃していたからである。それは、幼少期に身近に接した木造の町並みの記憶を失い、歴史を切断された空虚さを噛みしめることでもあったに違いない。だからこそ、敗戦直後に京都を訪れた際、前川は、歴史の偶然から戦災をほとんど受けず、数百年の時を刻んだ風格のある神社仏閣や人びとの生活環境を形づくる木造の町並みが、ほぼ無傷で残る古都の風景に畏敬の念を抱いたのだ。しかも、そこには、一九三二年、二七歳のデビュー作として竣工させた木村産業研究所で味わった手痛い挫折も重なっていた。雪の多い弘前に、庇のない白い箱のモダニズム建築をつくると何が起きるのか。後に繰り返し回想したように、建築技術への過信と気候風土に対する想像力のなさが招いた当然の結果だった。

こうして、戦後の前川は、歴史的蓄積の浅い未熟な近代建築を確かなものへ育て上げるため、戦前から長く続いた建築資材統制が解除された一九五〇年から、「テクニカル・アプローチ」と総称される素材と構法の地道な開発に取り組んでいく。だが、その成果として一九五二年に竣工し、栄えある日本建築学会賞をはじめて受賞した日本相互銀行でも、外壁からの漏水という思わぬ失敗をしてしまう。さらに、コンクリート打放しの外壁が雨の多い日本では汚れ、上手に歳を取れない現実にも直面する。そこで、京都会館では、コンクリートの外壁の外側にタイル・ブロックを積む方法を試みたのだ。そして、さらに改良を重ねて、コンクリートを流し込む型枠に特注タイルを先付けしてコンクリートの躯体と一体となる「打込みタイル」と名づけた独自の構法を考案して、紀伊國屋ビルディング（一九六四年）、埼玉会館（一九六六年）、埼玉県立博物館（一九七一年）で実践し、確かな手ごたえをつかんでいくのである。

さて、そのような前川の戦後の歩みの中で、弘前の前川建築の系譜をたどる時、何が見えてくるだろうか。そこからは、ル・コルビュジエのサヴォア邸の翌年に完成させた白い箱の木村産業研究所に始まり、同じく白色でありながら雨除けの水平庇の付いた弘前中央高校講堂（一九五四年）が続き、コンクリート打放しによる弘前市庁舎（一九五八年）と弘前市民会館（一九六四年）を経て、打込みタイルの弘前市庁舎新館（一九七二年）と弘前市立博物館（一九七六年）へと至る流れが明快に浮かび上がってくる。しかも、コンスタントに同じ風土に建てられてきたことから、その持続的な蓄積によって、他の地域では果たすことのできなかった新たな試みが、そのつど実践されていったのが弘前だった。

また、そこには、市民会館から三〇数年にわたり弘前の仕事に携わりながら、弘前の気候風土への理解と地元関係者との信頼関係を深めていった所員の仲邑孔一（一九三六年〜）の存在があったことも見逃せない。

一九八〇年、最晩年の前川が、仲邑との対話を通じて、博物館に続き、弘前公園の一角に竣工させたのが、弘前市緑の相談所である。着目したいのは、敷地の北側にある日本最大の幹周りを誇るソメイヨシノの大樹の古木やもみじなど、既存の樹木を取り囲むように、所要室をコの字形に配置した打込みタイルの外壁と、勾配屋根が併存されていることである。なぜフラットな水平屋根ではなく、勾配屋根となったのか。設計のチーフを務めた仲邑は、「桜の花や紅葉の枝がさしかかっている部分を、水平屋根で切るのはいかにも不粋だ」と思い、前川に、次のように進言したという。

「弘前公園は桜の名所。満開になると、花の重みで、枝が手の届くところまで垂れてきます。それを屋根の水平線で切ってしまうのではなく、『屋根で桜を迎えるようにしてはどうでしょうか。雪も屋根の上にのっていると美しいですよ』と説得しました。」（『Ahaus アーハウス』No.1，二〇〇五年一月発行）

こうして、この建物では、それまでの前川建築には見られなかった、鉄筋コンクリート造の勾配屋根が出現する。しかも、銅板葺きの緩やかな和風のデザインにまとめられ、大きく水平に張り出した軒下と室内へと続く勾配天井は、スプルースの縁甲板張りで仕上げられたのである。興味深いことに、打込みタイルの壁面と和風の勾配屋根が、建物の面によって巧みに使い分けられており、何ら違和感なく共存し、それぞれの特性が周囲の環境に馴染んで調和している。ここには、全体を統合しようとする論理も、方法を徹底しようとする意志も働いてはいない。むしろ、周囲の自然環境との応答から導き出された静かなたたずまいだけがある。それは、前川の到達した「環境建築」という思想の具現化した姿でもあったのだと思う。そして、この小さな建築で得られた方法は、前川にとって弘前の最後の仕事となる弘前市斎場（一九八三年）へとつながっていく。









「MOAIの独言」
日々心に引っかかった光景やモノをスマホで撮影、加工した作品
私が惹かれるのは
蓄積された時間が感じられるモノや光景
自然の造形物
今その時しかない光
固定概念にとらわれず自由に感じてください

Photographer MOAI
岩手県盛岡市出身
1985年大阪芸術大学卒
同年広告企画制作会社にカメラマンとして入社
あらゆる業種業態のクライアントの撮影に携わる
1996年フリーランスとなりPhoto Office MOAI設立
大阪を拠点に広告写真を中心に活動中

機能維持耐震天井工法
FMS天井



別府国際コンベンションセンター
(B-Con Plaza)

耐震改修・新築問わず
耐震天井工法から天井面構成部材重量 2.0kg/㎡以下の特定天井非該当まで対応
改修では既存意匠の継承もご相談ください

みなさまに安全、安心を
安田株式会社
https://ashibane.co.jp
info_fms@ashibane.co.jp
お問合せ先: マーケティング開発部　▶東京(03)-5858-0271　▶大阪(06)-6251-7152

WEB　動画

広告募集中

広告掲載位置が裏表紙に変わりました。
企業のPRに、ぜひご活用ください。掲載料金や申込については、事務局までお問い合わせください。